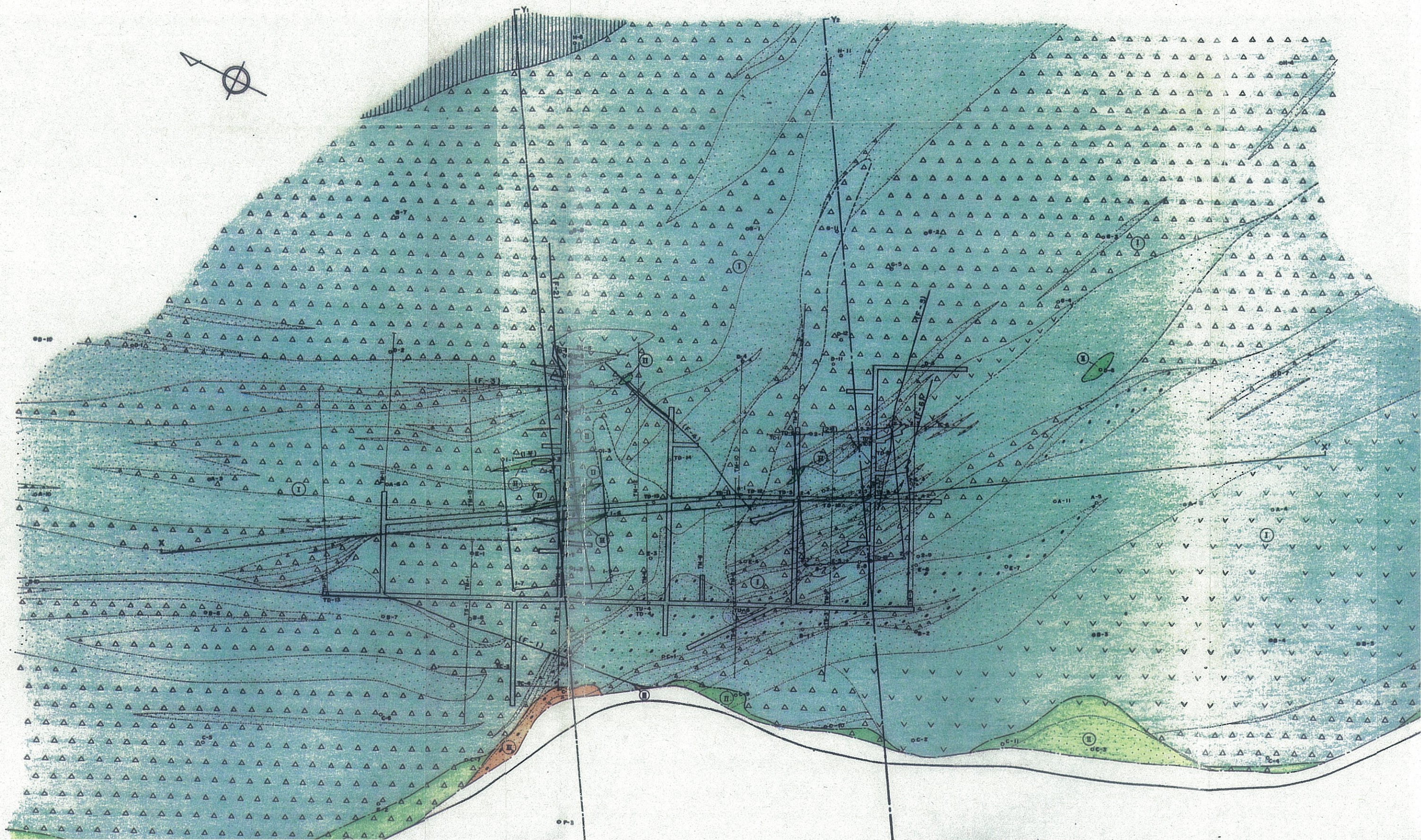
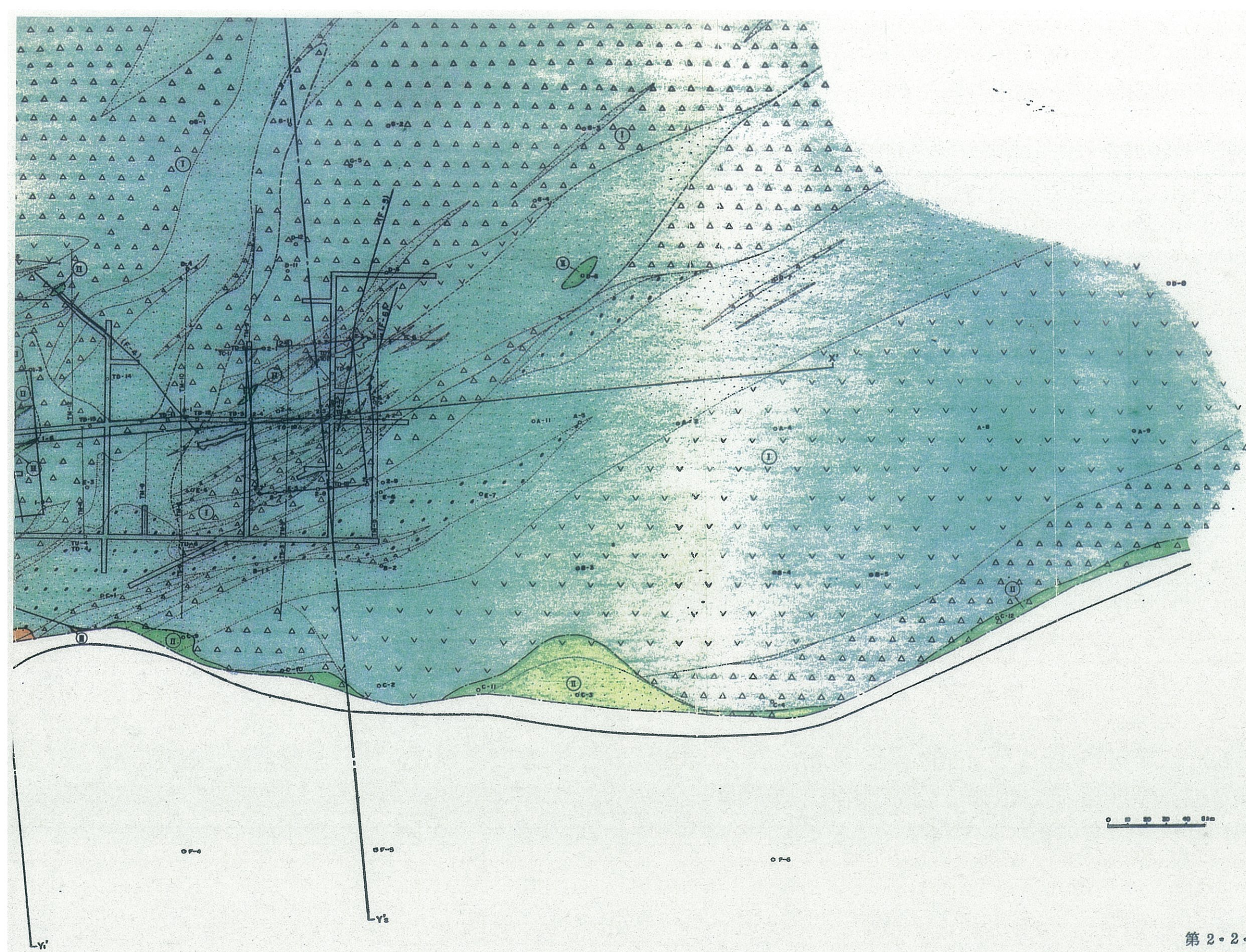


第 2・1・4 図 鉛直岩盤分類図 (X-X')



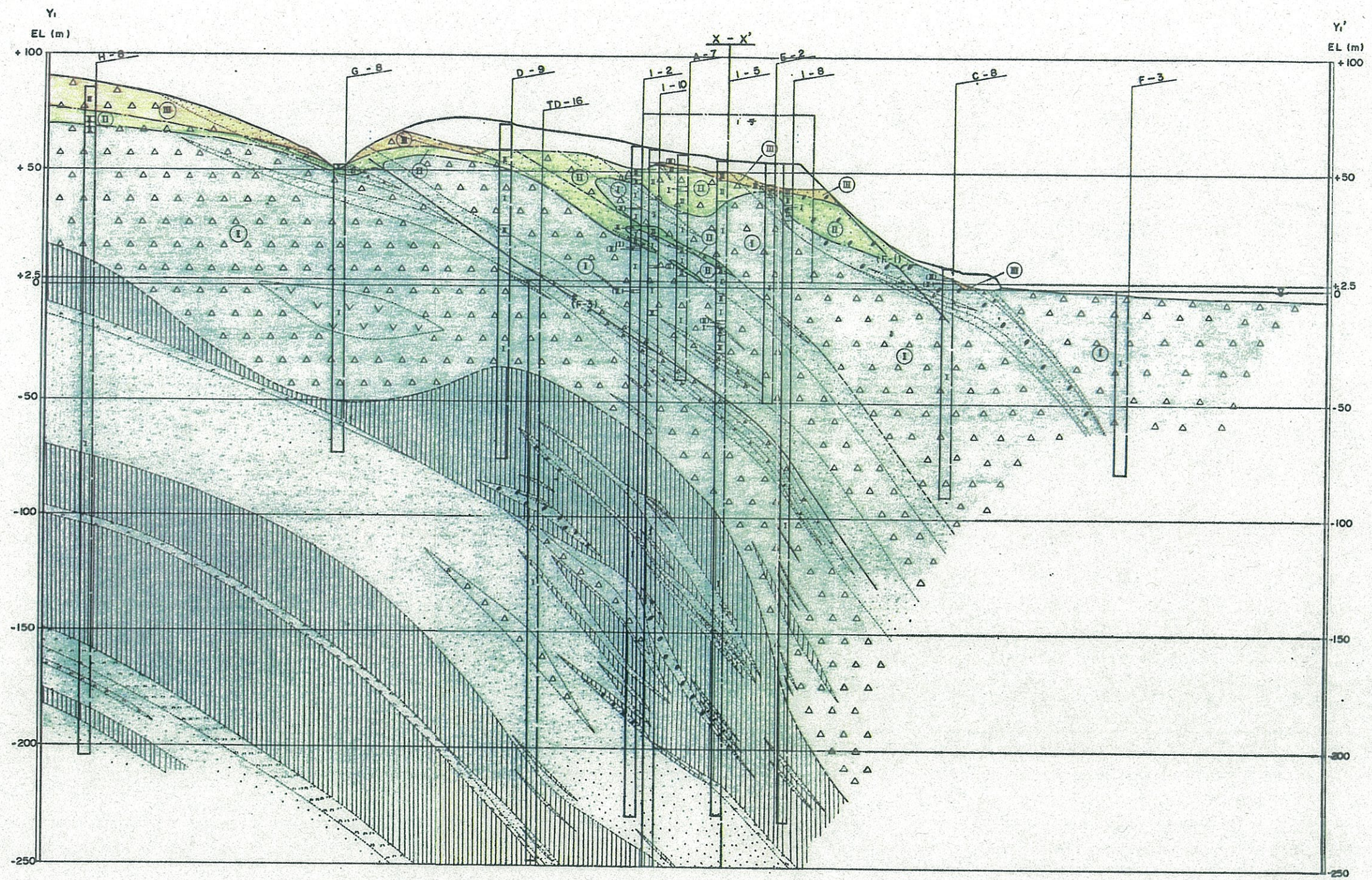
OP-1



凡例

	砂·砂·粘土
	腐化度 III (強風化)
	腐化度 II (弱風化)
	腐化度 I (微風化)

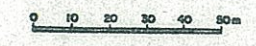
第 2·2·1 图 水平風化度区分分布图 (EL 2.5 m)



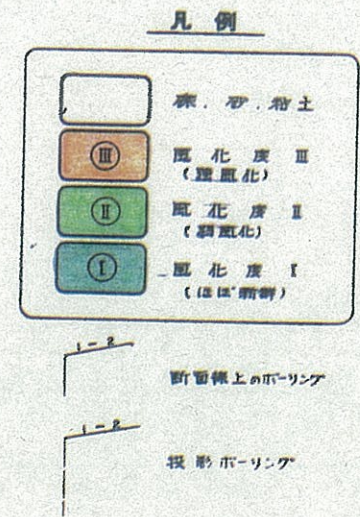
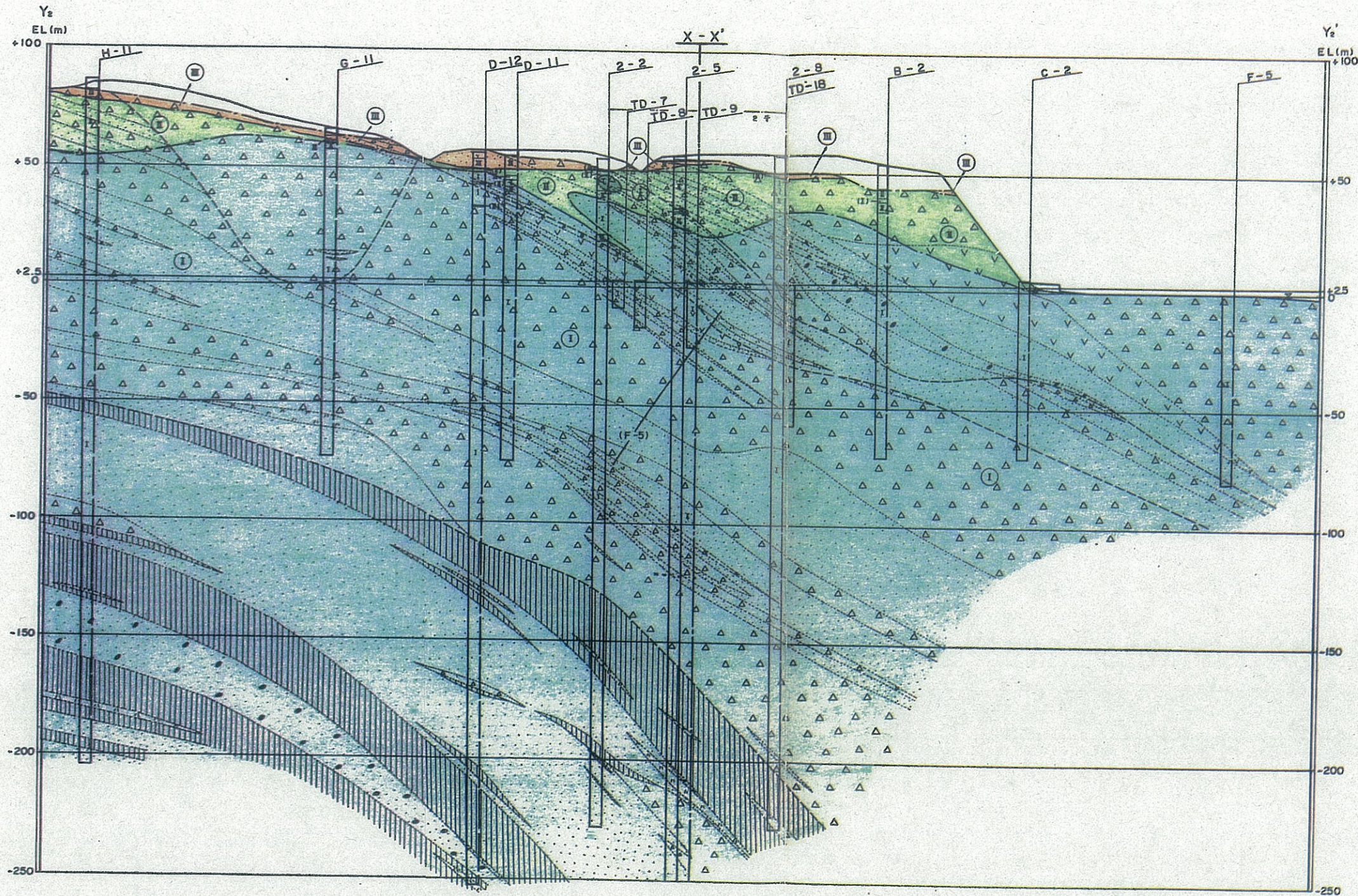
凡例

	礫・砂・粘土
	風化度Ⅲ (強風化)
	風化度Ⅱ (弱風化)
	風化度Ⅰ (ほぼ新鮮)

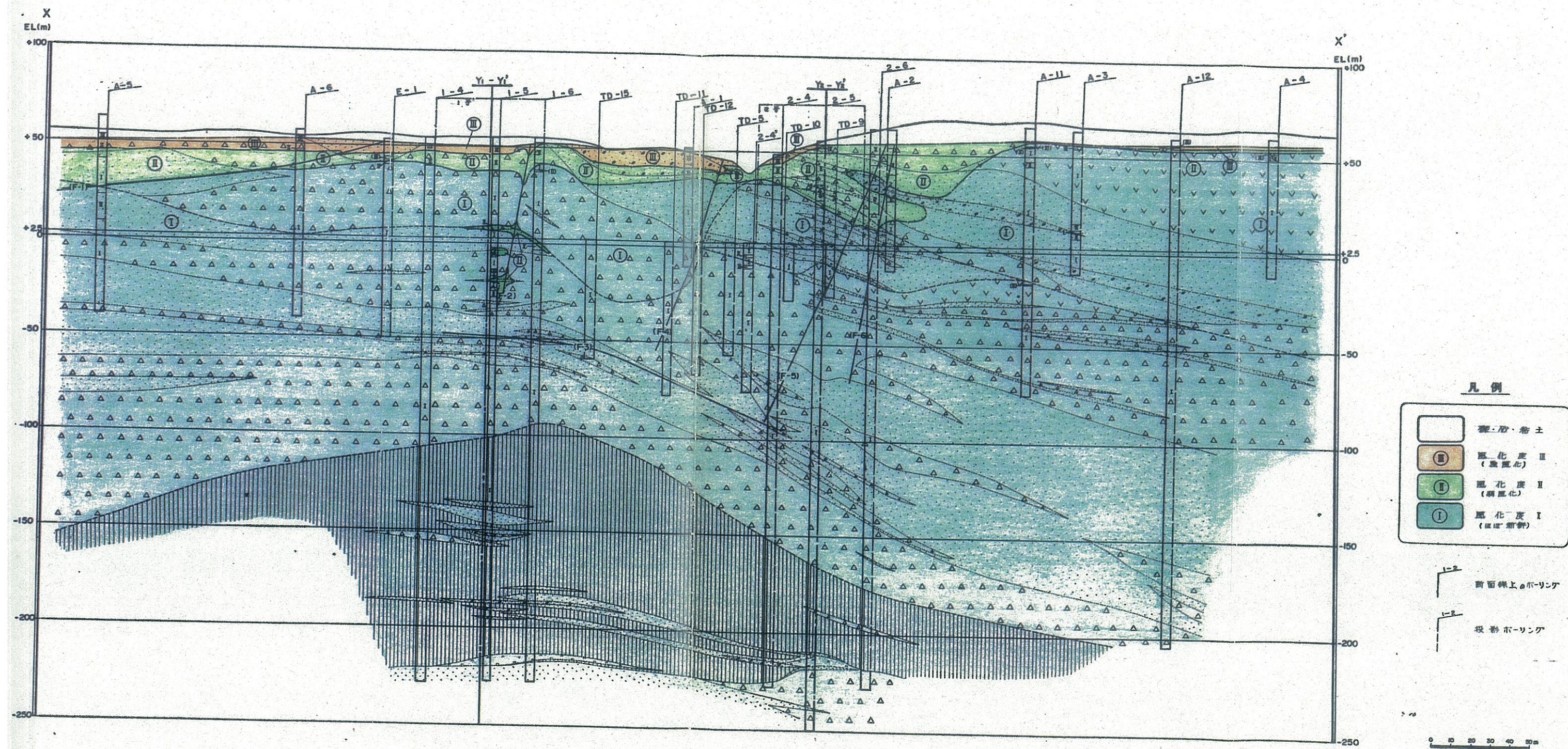
断面線上のボーリング
 投影ボーリング



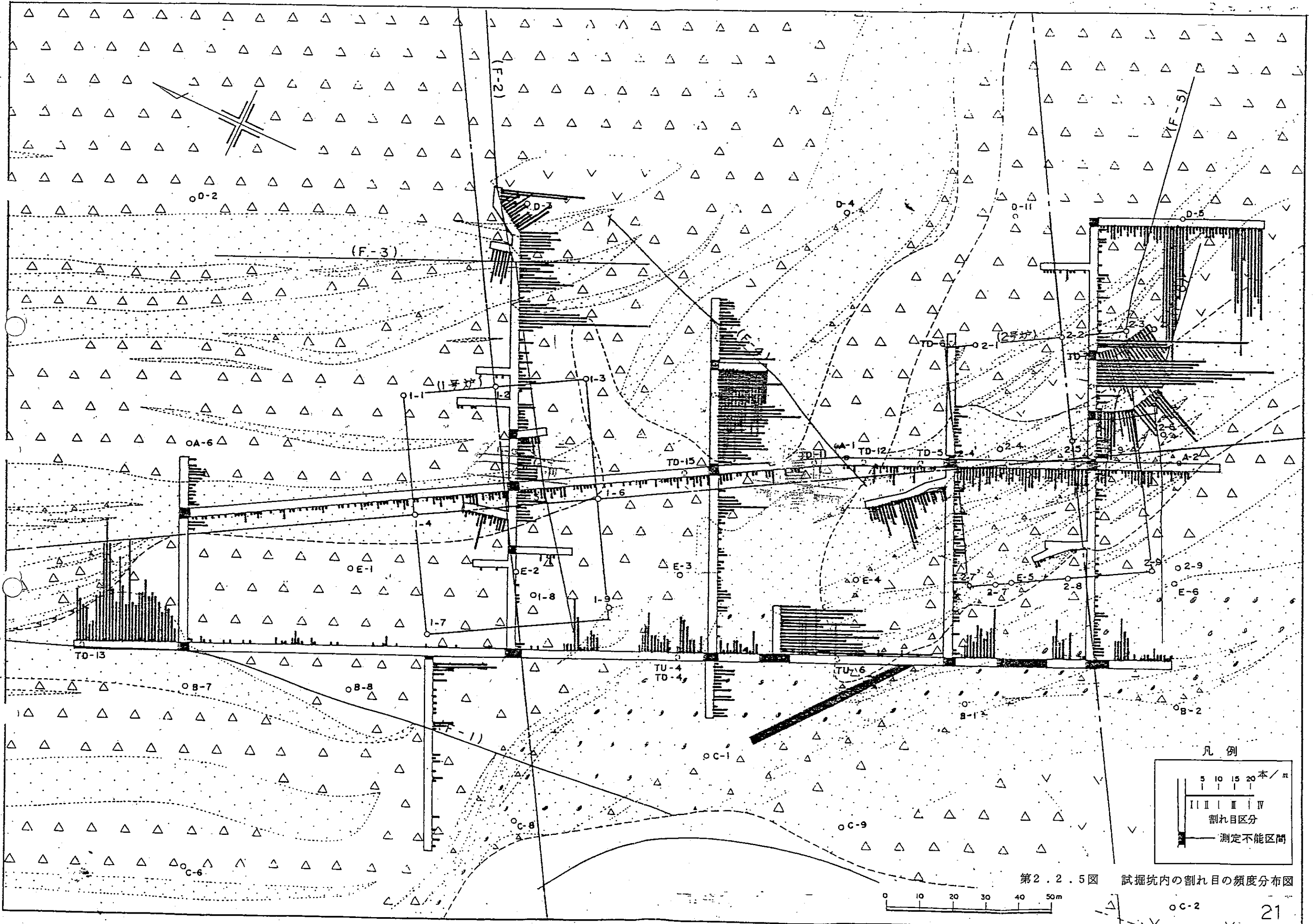
第2・2・2図 鉛直風化度区分分布図 (Y₁-Y₁')



第2・2・3図 鉛直風化度区分



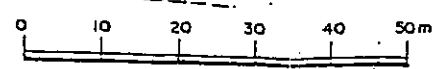
第 2・2・4 図 鉛直風化度区分分布図

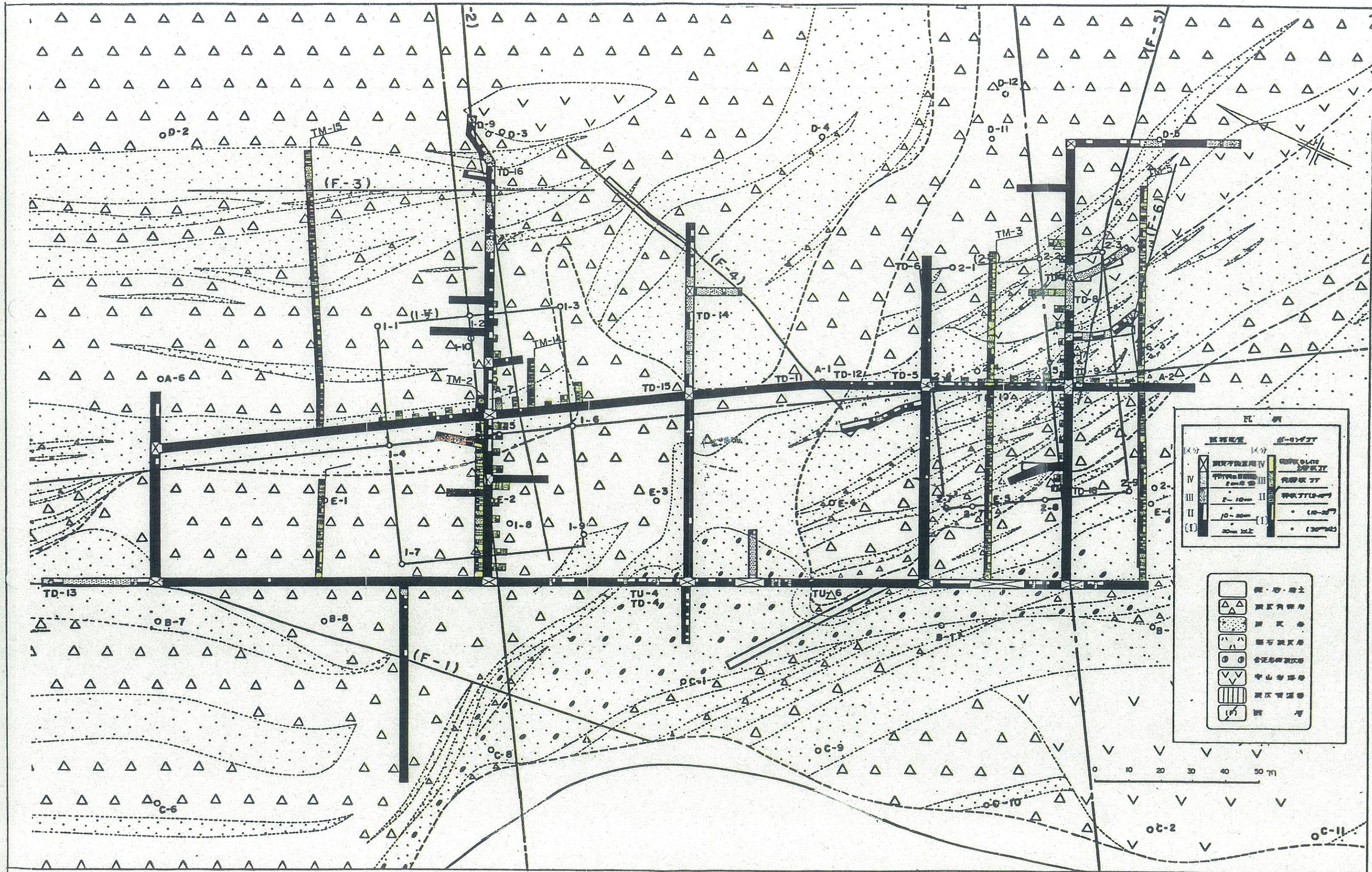


凡例

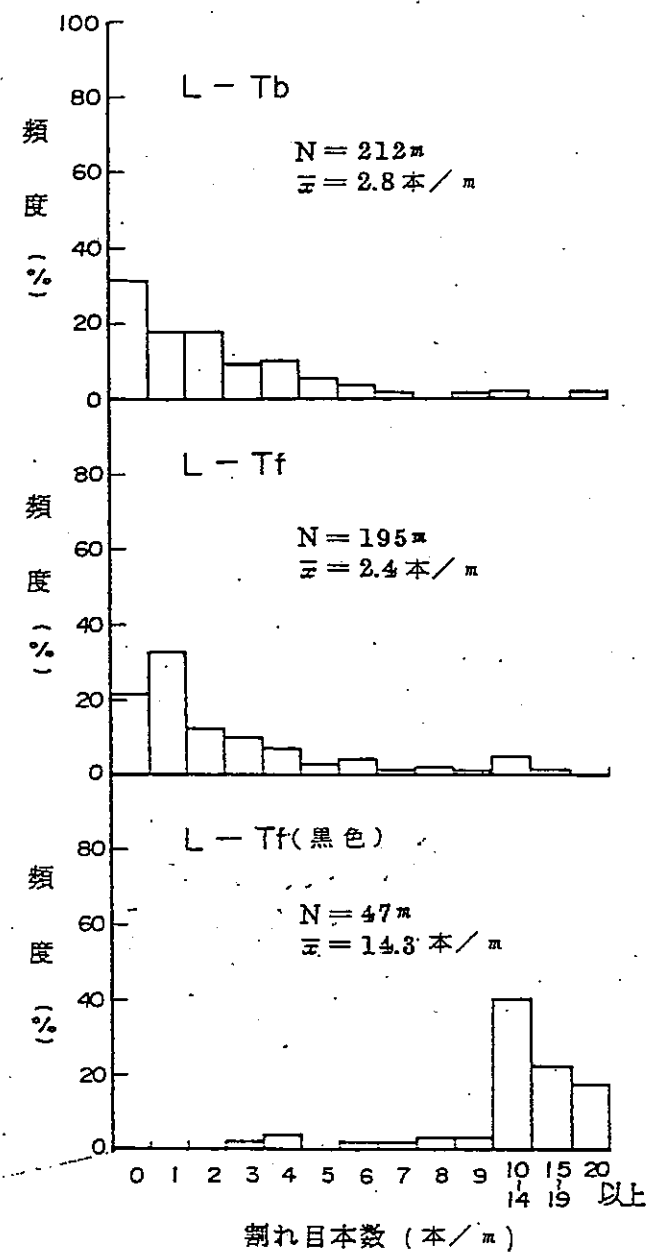
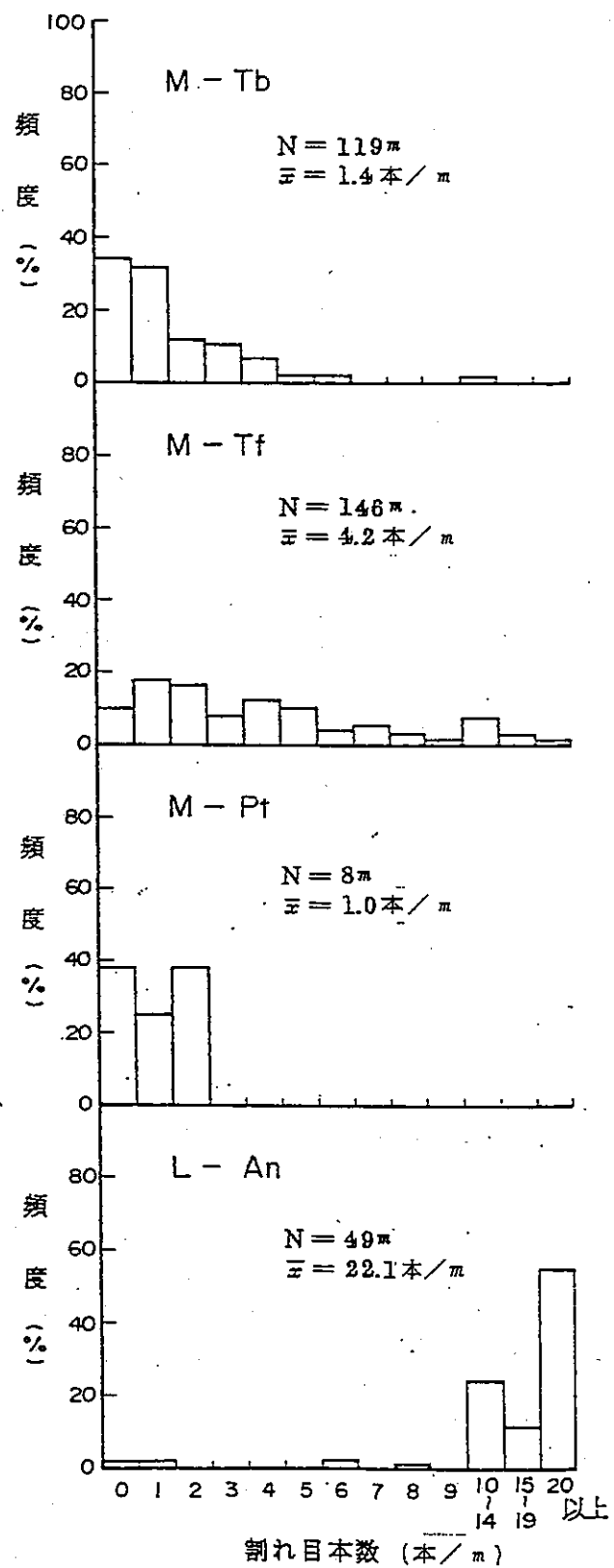
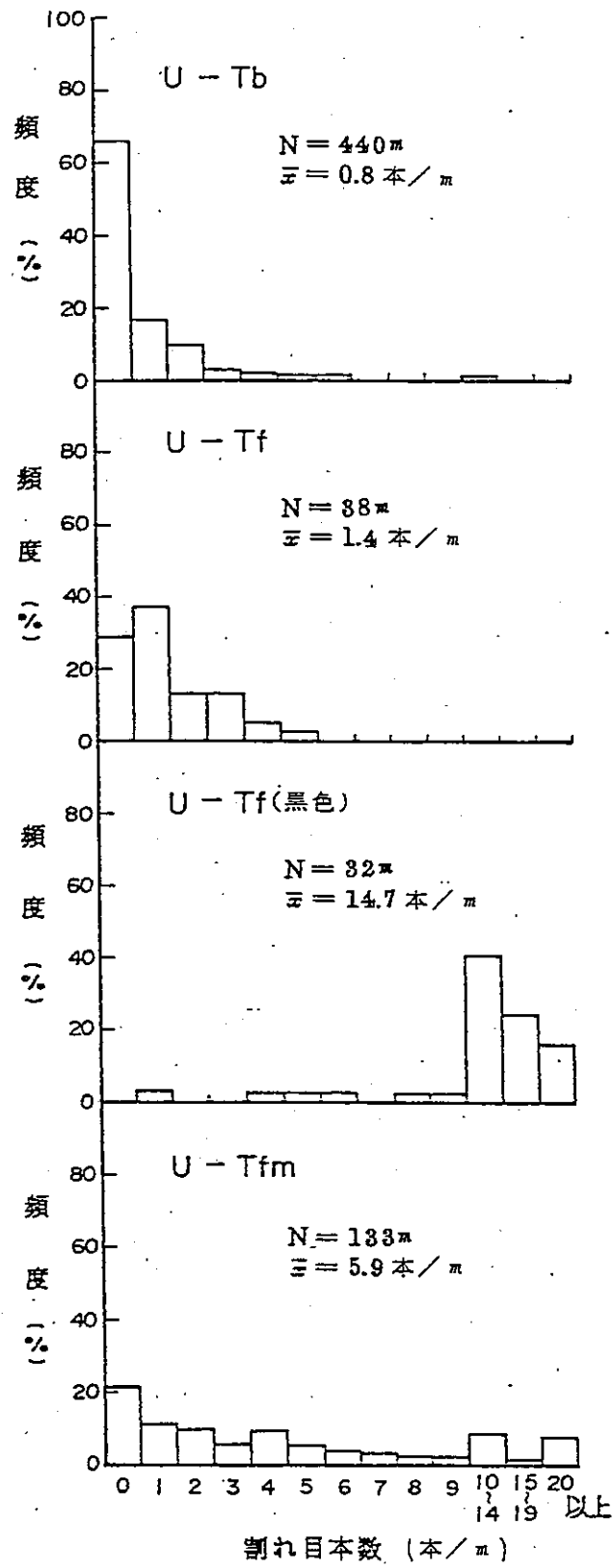
5	10	15	20	本/m
I	II	III	IV	割れ目区分
— 測定不能区間				

第2.2.5図 試験坑内の割れ目の頻度分布図

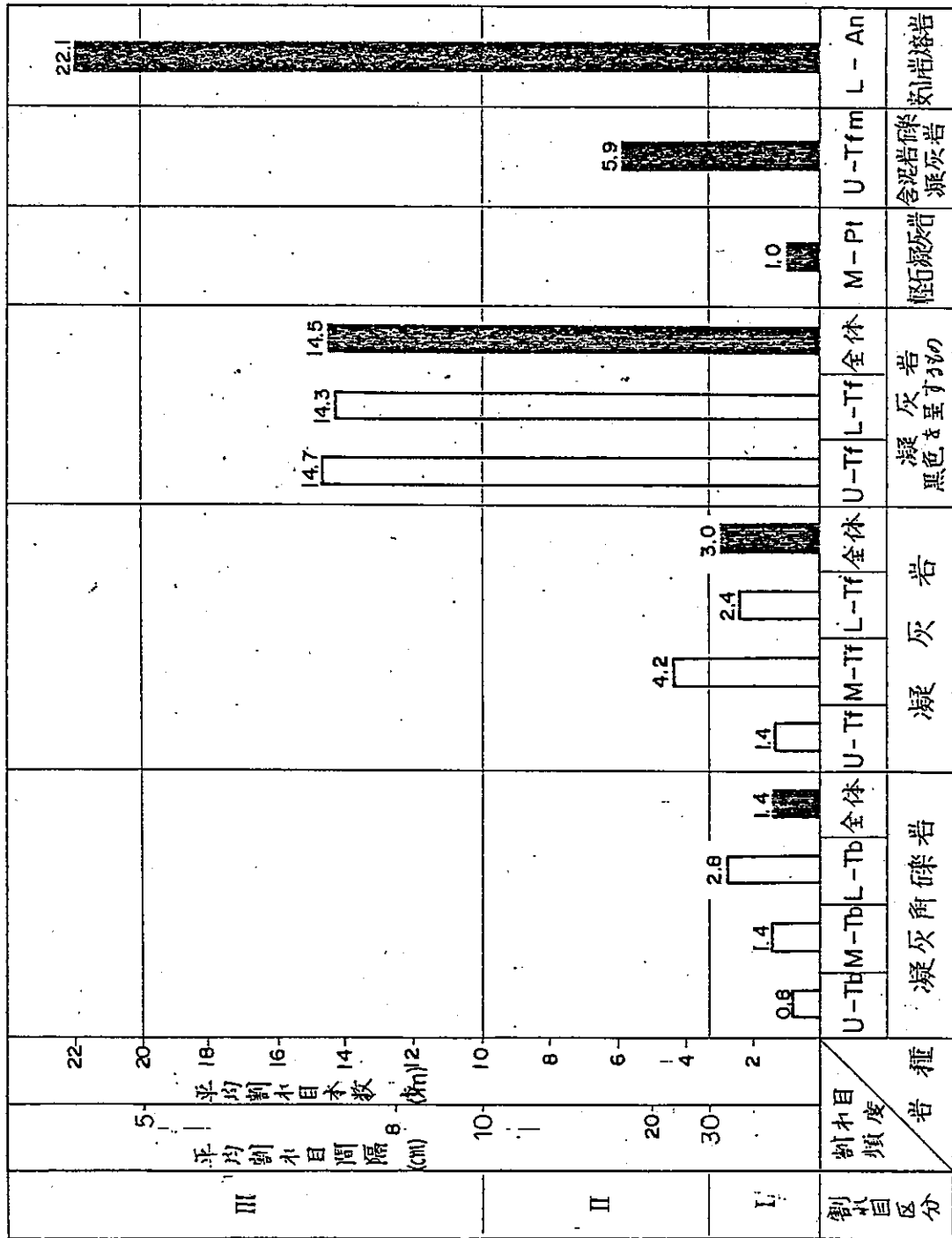




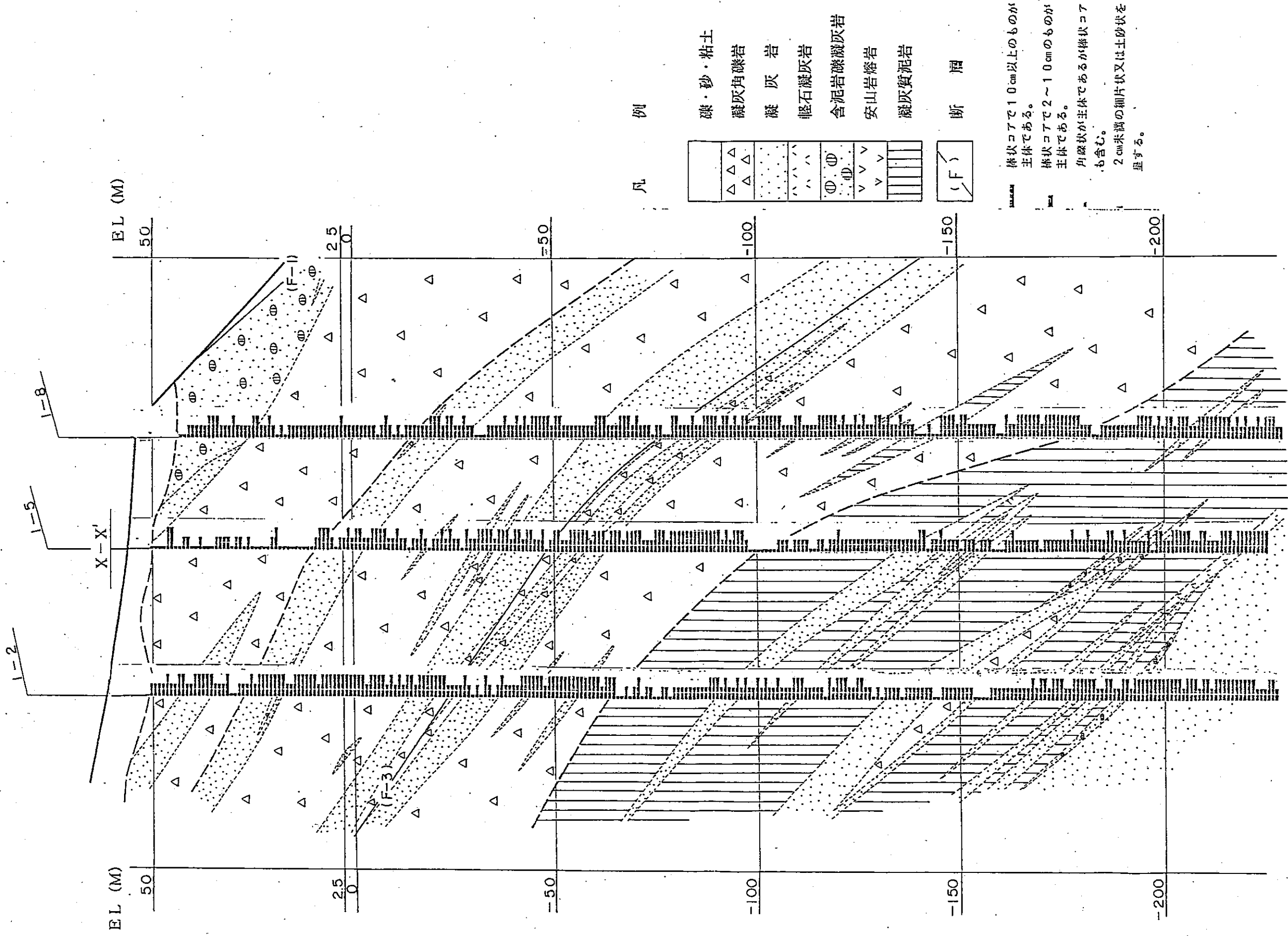
第2・2・6図 試掘坑と水平ボーリングの割れ目区分分布図



第2.2.7図 試掘坑内の岩種別割れ目ヒストグラム

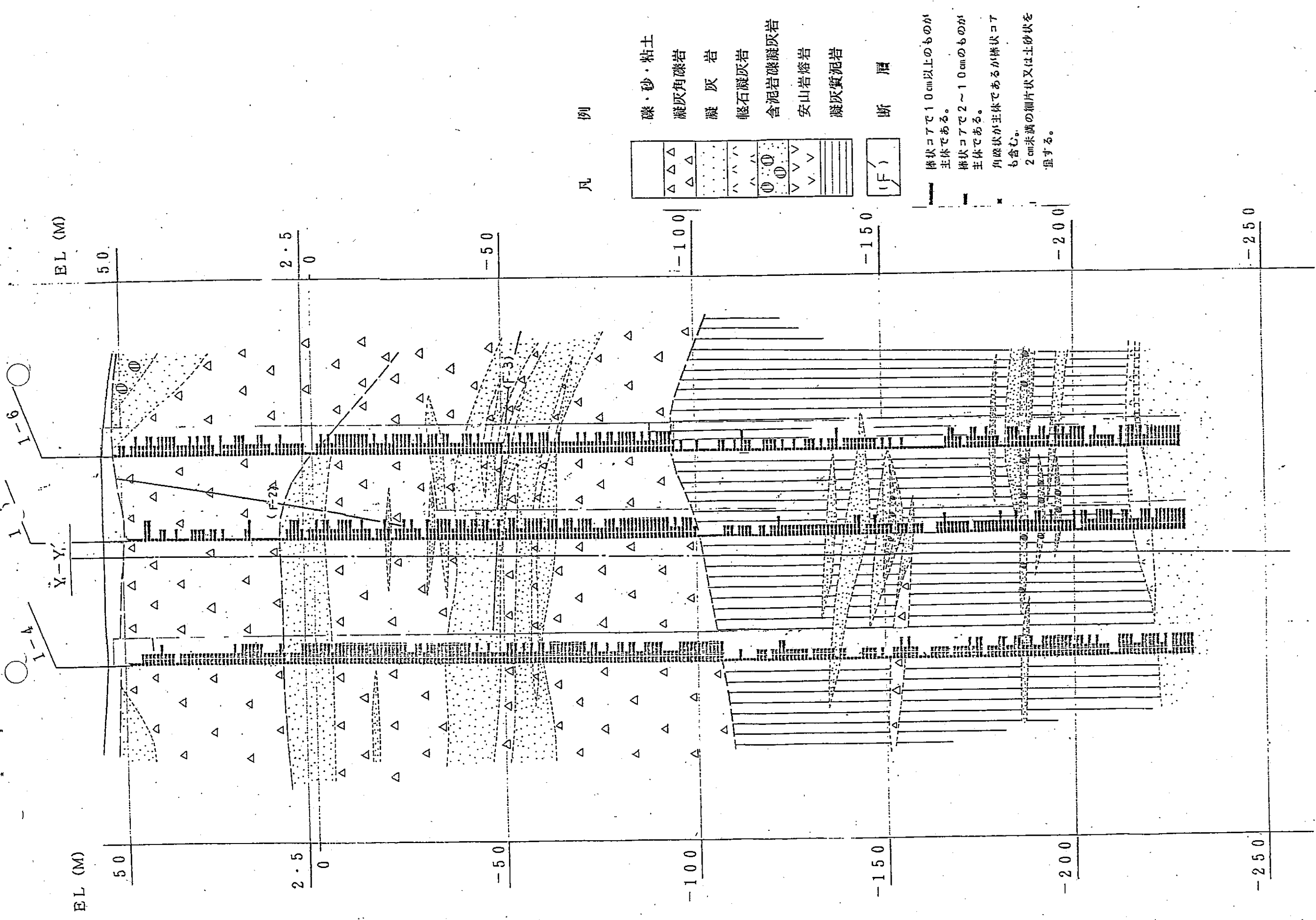


第2.2.8図 試掘坑の岩種別平均割れ目頻度



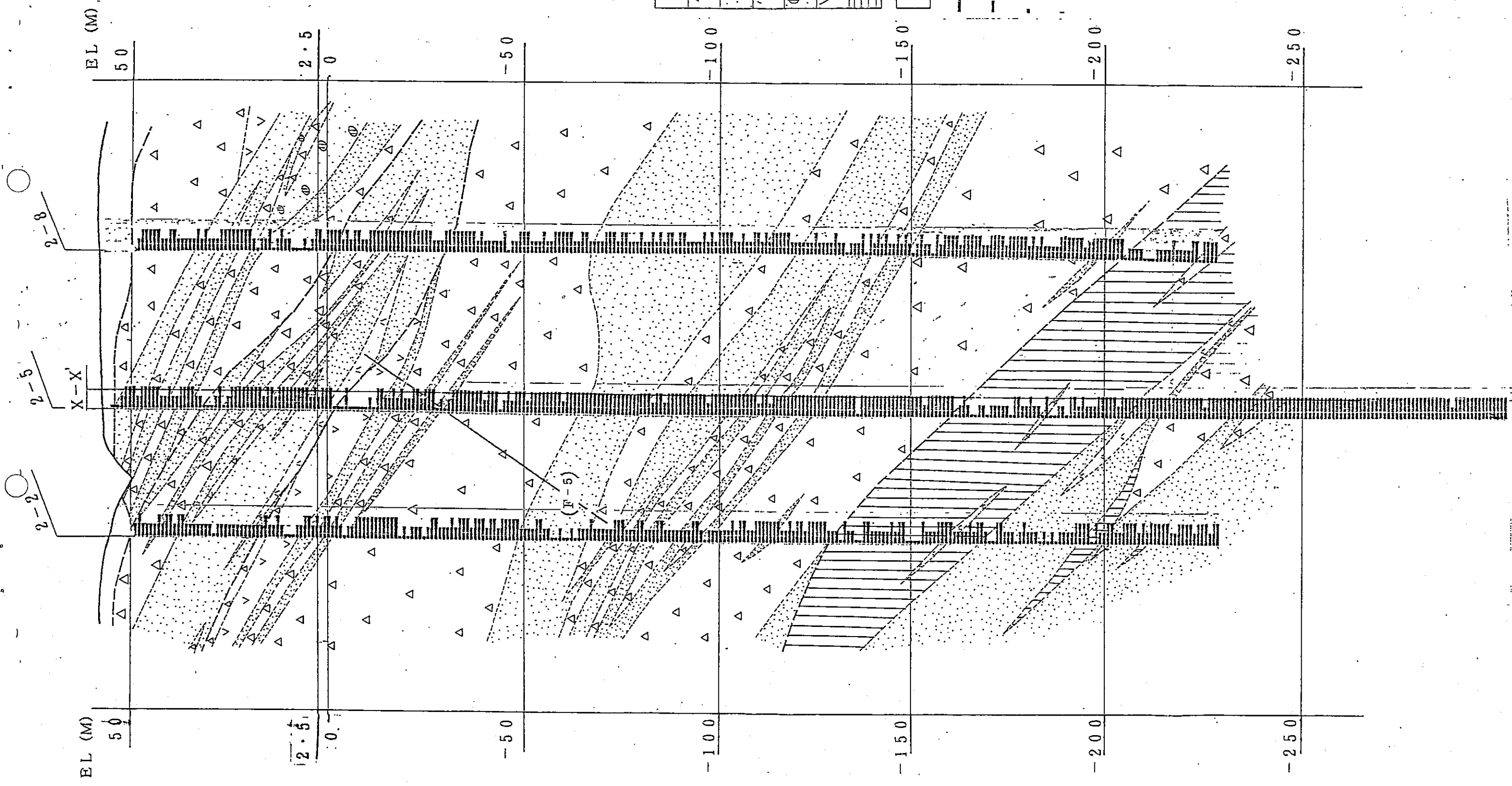
第2.2.9図 基礎ボーリングの割れ目区分布図(1号側)

(1m区間毎で主体を占めるコア長)



第2.2.10図 基礎ボーリングの割れ目区分布図(1号側)

(1m区間毎で主体を占めるコア長)



凡 例

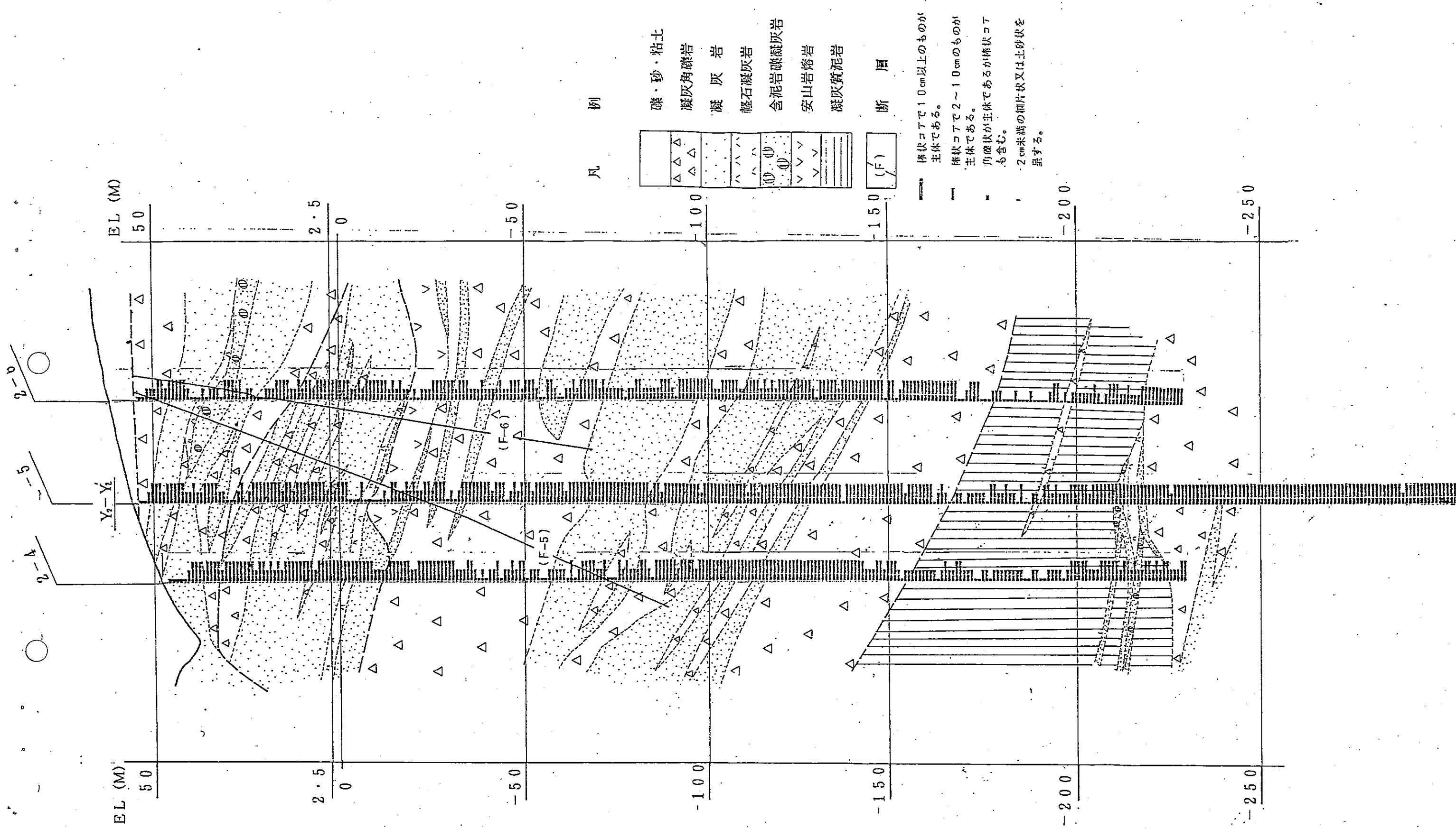
- 礫・砂・粘土
- 凝灰角礫岩
- 凝灰岩
- 軽石凝灰岩
- 含泥岩凝灰岩
- 安山岩凝灰岩
- 凝灰質泥岩

断 層
(F)

— 棒状コアで10cm以上のものが主体である。
 - 棒状コアで2~10cmのものが主体である。
 . 角礫状が主体であるが棒状コアも含む。
 .. 2cm未満の細片状又は土砂状を呈する。

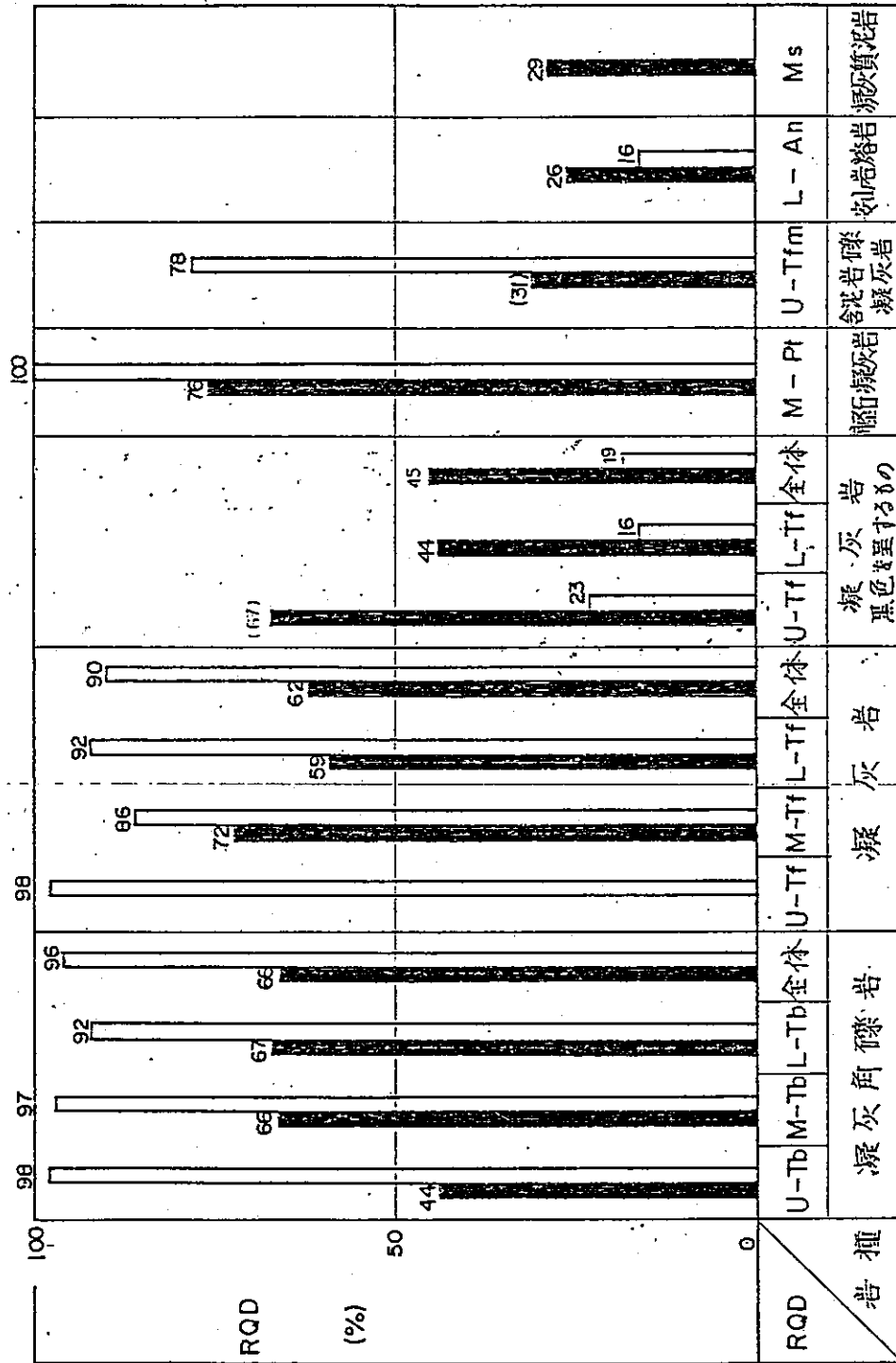
第2.2.11図 基礎ボーリングの割れ目区分分布図(2号側)

(1m区間で主体を占めるコア長)



第2.2.12図 基礎ボーリングの割れ目区分布図(2号側)

(1m区間毎で主体を占めるコア長)

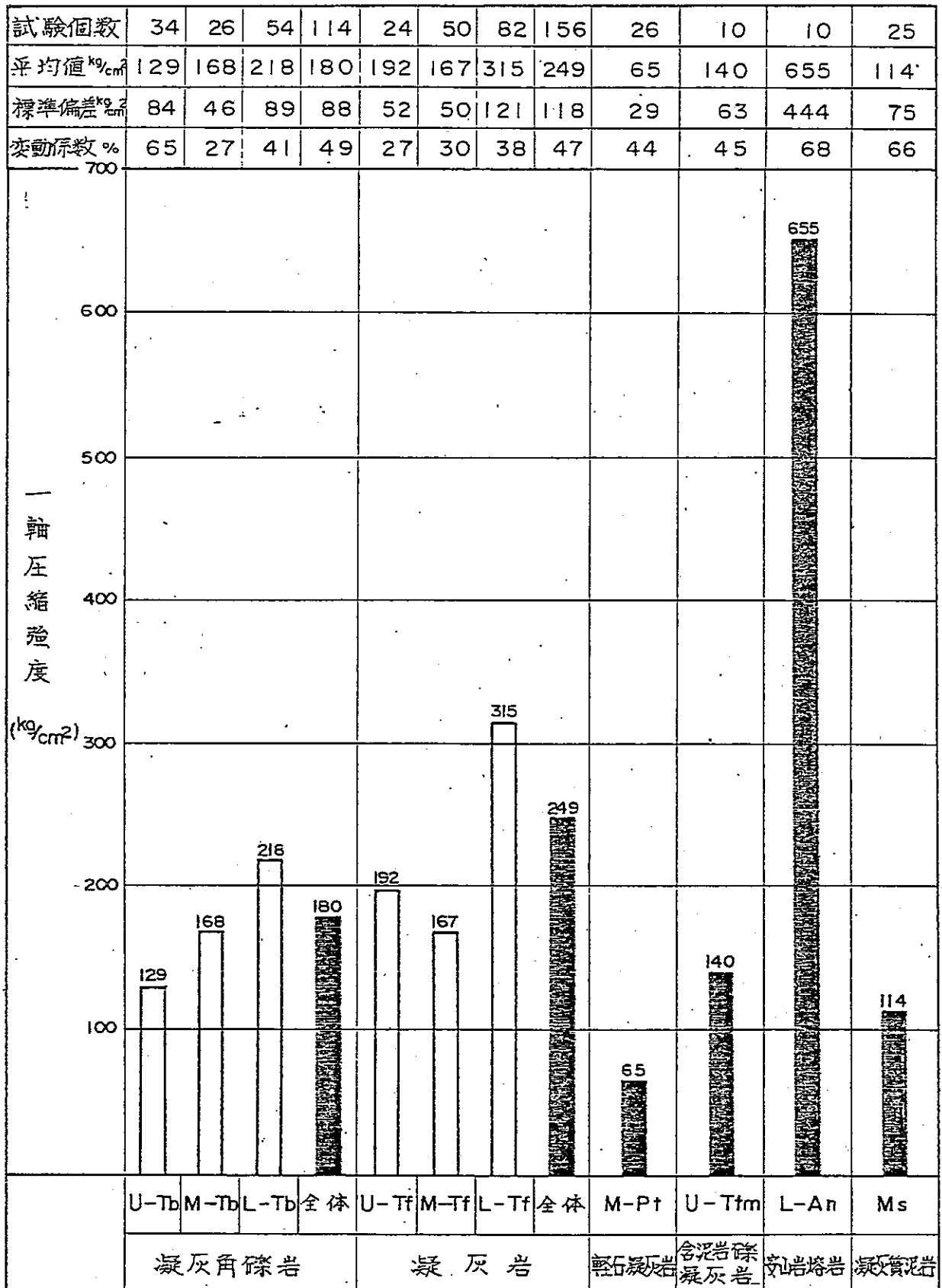


■ RQD (基礎ボリング)

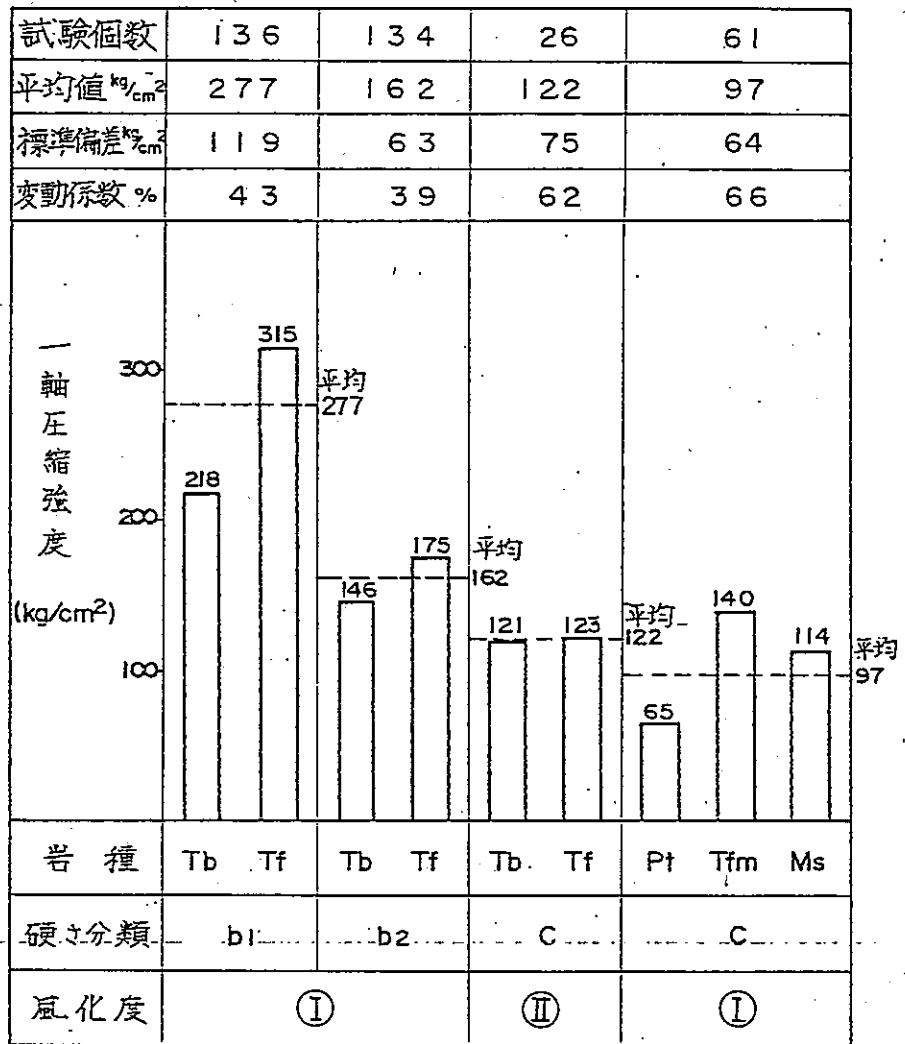
□ RQD (試掘坑)

() 内の数字は、該当する岩種が 2.5 m 以上深に出現しないので 2.5 m 以上で確認された新鮮部の平均 RQD を記入している。

第 2.2.13 図 基礎ボリングと試掘坑の RQD



第 2.2.14 図 基礎ボーリング (EL+2.5 以下) 及び試掘坑の岩石の一軸圧縮強度比較図



第2.2.15図 火砕岩の一軸圧縮強度の風化特性

第3.1.1表 試験実施項目

項目 断層	一般 物理試験	静的単純 せん断試験	一面せん 断試験	一軸 圧縮試験	動的単純 せん断試験	静的コーン [※] 貫入試験
F-1	○	○		○	○	○
F-2	○	○			○	△
F-3	○	○	○		○	△
F-4	○					○
F-5	○	○			○	○
F-6	○					△

※ 静的コーン貫入試験で△は、貫入不能箇所

第3.2.1表 主要岩種の地質要素と岩盤分類

岩種	岩盤分類	A			B			C		
		風化	割目	硬さ	風化	割目	硬さ	風化	割目	硬さ
安山岩熔岩	L-An				①	Ⅲ	a			
凝灰角礫岩	L-Tb Ms-Tb	①	I~II	b ₁						
"	M-Tb				①	I~II	b ₂			
"	U-Tb				①	I~II	b ₂			
凝灰岩	L-Tf Ms-Tf	①	I~II	b ₁						
"	M-Tf				①	I~II	b ₂			
"	U-Tf				①	I~II	b ₂			
軽石凝灰岩	M-Pt Ms-Pt							①	I~II	c
含泥岩礫凝灰岩	U-Tfm Ms-Tfm							①	I~II	c
凝灰質泥岩	Ms							①	I~II	c

岩盤の割れ目区分

割れ目区分	試料塊の平均割れ目間隔	ボーリングコア形状	
		火砕岩	安山岩熔岩
I	30cm以上	棒状コアで10cm以上のものが主体である。	棒状コアで50cm以上のものが主体である。
II	10~30cm	棒状コアで2~10cmのものが主体である。	棒状コアで10~30cmのものが主体である。
III	2~10cm	角礫状が主体であるが棒状コアも含む。	
IV	2cm未満 (数割で割れ目は不明瞭)	2cm未満の薄片状又は土砂状を呈する。	

岩盤の硬さ区分

区分	一軸圧縮強度の目安
a 硬い	約500kg/cm ² 以上
b 中硬	b ₁ 中硬 ₁
	b ₂ 中硬 ₂
約100~500kg/cm ²	
c やや軟い	約100kg/cm ² 以下
d 軟い	

岩盤の風化度区分

風化模式断面図	風化帯区分	風化度区分	風化の特徴
	未風化帯		
	弱風化帯	風化度 ②	岩石全体としてかなり風化が進み軟弱化しており、特に割れ目沿いの粘着力が減少し、土砂状を呈する部分もみられる。
	強風化帯	風化度 ①	割れ目沿いに顕著な一軸圧縮土化が進み、粘着力が減少している。岩石内部まで強風化を受けて岩石は、多少軟弱化している。
未風化帯	未風化帯	風化度 ③	割れ目沿いに高く風化度が認められることがあるが、全体的に新鮮な岩塊からなる。

第3.2.2表 試料採取地点の性状

断 層	試 料 採 取 地 点 の 性 状
F - 1	<p>破碎幅が約 10 cm で、地層の走向、傾斜にほぼ平行する走向断層であり、全体に軟質化した角礫及び角礫混り粘土状となっている。試料は礫分のほとんどない部分から採取した。</p>
F - 2	<p>破碎幅が 0.5 ~ 8 cm で地層面にほぼ直交する高角度の断層で角礫ないし角礫混り粘土状である。試料は礫分の 17 % 含まれている部分から採取した。</p>
F - 3	<p>破碎幅が約 10 cm で地層面の走向、傾斜にほぼ平行する走向断層であり、全体に軟質化し細かな割れ目の入っている部分が多い。試料は軟質化の程度の大きい部分から採取した。</p>
F - 4	<p>破碎幅が 1 ~ 7 cm で地層面にほぼ直交する高角度の断層であり、やや軟質化した角礫ないし、角礫混り粘土からなる。試料は礫分のほとんどない部分から採取した。しかし、力学試験に供する試料は、破碎幅の大きい部分が少なく採取不可能であった。</p>
F - 5	<p>破碎幅が 3 ~ 7 cm で地層面にほぼ直交する高角度の断層で角礫ないし角礫混り粘土からなる。試料は、礫分の約 10 % 含まれている部分から採取した。</p>
F - 6	<p>破碎幅が 2 ~ 4 cm で地層面にほぼ直交する高角度の断層であり、試料は礫分の約 10 % 含まれている部分から採取した。しかし、力学試験に供する試料は、破碎幅の大きい部分が少く、採取不可能であった。</p>